

# 自己改革

## 加速

千葉県は管内3町村や県と「長生農業独立支援センター協議会」を設立して、一体で新規就農者を育成している。広域の自治体とJAが負担金を出し合い、農業振興事業の基幹組織を立ち上げるのは、県内初の取り組みだ。

協議会は2019年6月に設立。JAと一宮町、長生村、白子町、県長生農業事務所が加入している。「長生農業独立支援センター」を運営。センターは、事務所をJA本所内に置き2人が専任職員だ。昨年8月には県から農業次世代人材投資事業（準備型）の研究機関の認定を受けた。これまで3町村が別々にしていた就農相談や研修受け入

### 新規就農者育成

千葉・JA長生

れを対応する。センター設立の背景には、長生都市の新規就農者数は2017年度17人と県内でも少なく、将来的な農業生産力低下への危機感があつた。就農に意欲ある人材を地域外からも受け入れて、地域農業の維持・拡大を図るのが狙いだ。

役割分担も明確だ。JAが地域農業の担い手に向くJA担当者（愛称TAC IIタック）による栽培支援や販路先の確保、生産資材の供給を担当。3町村が住宅情報の提供や農地の相談などに対応する。県長生農業事務所は普及指導員が栽培指導や新規就農・営農改善の相談に当たる。

センターでは主要作物の長ネギやトマト、梨での就農を目指す研修生を受け入

# 県、3町村と基幹組織



トマトの出来を確認する、研修生の伊藤さん(左)と受け入れ農家の石和田さん(千葉県白子町で)

れる。農家に派遣するなど、地、空きハウスなども紹介して1、2年の営農実習をし、就農できる体制を整え、実施。借りられる住居や農

センターには現在2人の研修生がいる。千葉市の伊藤智佳さん(43)は、白子町のトマト農家・石和田喜明さん(44)の下で4月から実習している。現在は春トマトの収穫と、7月から定植予定の抑制トマトの準備に取り組み。

地域でサポート

石和田喜明さん JAと町村、県が連携して協議会ができて、新規就農者を育成する取り組みが進んでいるのは、農家としてうれしい。受け入れている研修生を一人前にし、トマトで所得を安定化することを第一に地域一丸でサポートしていきたい。

### 経営安定へ一貫して支援

**概要** 千葉県の茂原市、長生村、一宮町、長柄町、長南町、睦次町、白子町が管内。米をはじめ、トマト、キュウリ、メロン、イチゴの施設園芸、タマネギ、長ネギなどの露地野菜、ガーベラやストックなどの花きもある。



「農業をしたいと思って、市原市の内務佑一さん(39)は長生村でネギし、石和田さんは「自分の農業のノウハウを伝えたい。白子町でトマト農家が増えるのはうれしい」と笑顔だ。

また、市原市の内務佑一さん(39)は長生村でネギし、石和田さんは「自分の農業のノウハウを伝えたい。白子町でトマト農家が増えるのはうれしい」と笑顔だ。

町村のセンターへの期待は大きい。白子町の担い手は「センターができて就農者を受け入れる体制を整えられた。スタートの就職相談から、ゴールの就職し定着するまで、一貫して支援できる」と意義を強調する。

センターは将来的には研修生の希望に沿った品目や作型の研修も検討する。内山孝夫センター長は「研修生に意欲があれば早く就農させたい。その後も全面的に支援する」と強調する。今後は1年に6人程度の新規就農者誕生を目指す。(次回は7月4日付)